

かすが会ニュース

第5号

発行日 平成9年3月16日

発行元 かすが会 広報室

かすが会と私と酒

会長 森口嘉雄

20数年前のある日、水戸街道を走る車中で友人の「酒を買って帰ろう」の一聲、6号線側の変わった看板。「全国の地酒、珍酒、ものぞき親爺が、おもいきり集めました」の店で、春日やの中村社長に出会い私の地酒との道連れ人生が始まりました。

月日の過ぎるのは早いもので、かえりみますと、春日やの中村国夫社長より春日会の再開の相談を受けて十数年。

彩光社の「彩光」紙上による酒学館、春日会開催の発表を受け、数人の有志（事務局・工藤貞儀氏、東京農大生・須藤悦康氏、東京在住・岩脇孝氏、影山直樹氏、柏在住・吉倉孝也氏）と共に春日会の再開を引き受けた。

我孫子の「みちくさ」での酒学館（講演と吟醸酒を味わう会）、柏高島屋での日本初の「まぼろしの吟醸酒チャリティー・オークション」、歳元見学会、各種の例会、我孫子の鈴木屋における「日本酒研修会」など想い出がつきません。

かすが会も十周年の記念大会を通りすぎ、毎年の例会、日本酒研修会などを一つ積み重ね、今年で19年になります。

顧みますと18年は早く感じはいたしますが、18年間の皆様のお力添えによるご支援を思い出しますと、実に充実した長い18年であったと思います。

今、19年を迎えるにあたり春日や中村社長をはじめ顧問の先生方、いつも何かと色々なるご支援をいたいでおります各歳元の皆様、会員の皆様に厚く感謝いたします。

この18年間に、出会った素晴らしいお酒の味と、見学させていただいた歳元さん々数々と想い出は多く一生忘れることはできません。

今後も、当かすが会を進歩・発展させてまいります。皆様の旧に倍するご支援とご協力を宜しくお願い申しあげます。

最後に、皆様の健康とご多幸を祈念申しあげます。

(もりぐち・よしお)

平成9年度・第1回かすが会

平成9年3月16日(日曜日)午後2時より鈴木屋本店において平成9年度・第1回かすが会例会を開催します。

1. 総会:

・前年度の決算報告

・今年度の事業計画

平成9年 3月16日(日曜日)——第 1回かすが会例会(主催)

平成9年 5月18日(日曜日)——第15回日本酒研修会(協力)

平成9年 9月21日(日曜日)——第 2回かすが会例会(主催)

平成9年11月30日(日曜日)——第 3回かすが会例会(主催)

・役員の改選(現職は下記)

会長: 森口嘉雄 監事: 西堀正雄

副会長: 吉倉孝也 事務局: 工藤貞儀

幹事: 小泉功介 顧問: 牧田 茂

福室欽斎 内山幸二

鳥羽安三 小泉武夫

肥沼 豊 中村国夫

金子昌成

中村 鈴木俊彦

佐藤彰純

加藤洋一

春田育男

2. 1997年新酒を楽しむ:

かすが会・会員歳元さんから平成8年酒造年度の搾りたての新酒を届けていただきました。

会員の皆様で、今年の出来具合などを話し合いましょう。

西の話

顧問 中村国夫

酒・酔・酌・醸造・醸醉など、お酒に関係ある漢字には、西(とりへん)が使われています。酒屋の親爺としては、「知らぬは恥」と、ちょっと調べてみました。

広辞苑によれば

とり【酉】①十二支の第10番目。

②西の方角。

③昔の時刻の名。今午後6時ごろ。および、その前後約2時間。とあります。これじゃさっぱり分かりません。

次は、漢字辞典で探してみました。

酉の字はもともと「酒を醸す器」の象形文字で、古くは酉そのものがお酒を意味していました。後に液体を表すサンズイが付いて「酒」の字が出来たそうです。

酉長の「酉」は、酉の上に屋根が乗っかっています。それは、酒を司どる、管理するという意味で、また酒の行事、祭りを取り仕切る長が酉長ということになります。

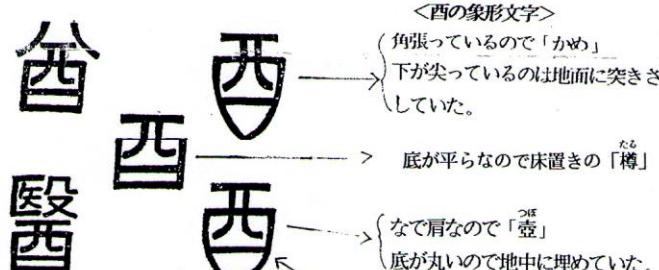
「医」という字の旧漢字「醫」に含まれる酉は、薬を意味し、古くはお酒が薬として使われていたことを意味しています。酒を飲ませて心を和らげたり、眠らせたり、あるいは酒を患部に塗ったり温布したりして外用薬にも使われています。近頃は、疲労回復に酒風呂がいいとか、「酒は、百薬の長」は、「醫」から証明されています。

また「醍醐味」とは? 醍醐の「醐」は、牛などの乳汁から作られる乳酒のこと、その中でも味の良いものを、「醐」といい、「醍」は、味の濃いお酒のこと。従って「醍醐味」とは、素晴らしいお酒のことを言う。

なるほど、酒でこそ、本物の醍醐味を味わえるというわけ。

最後に、酉に鬼と書けば、「醜」(みにくい)となるので、用心、用心。

(なかむら・くにお=春日や酒店社長)



全国新酒鑑評会

平成9年全国新酒鑑評会(平成8年酒造年度の対象酒)は、下記の通り開催されます。本会の開催目的は、日本酒の製造技術と品質向上としています。

-記-

1. 日時···平成9年5月16日(金曜日)

酒造関係者···09:00から15:00まで

一般者···13:00から15:00まで

2. 場所···国税庁醸造試験場(広島中央サイエンスパーク内)

電話0824-20-0800

新幹線・東広島駅=タクシーで10分

JR 西条駅 =タクシーで15分



春日や

第15回日本酒研修会

全国から本物の日本酒が集合します。

本年は全国新酒鑑評会の2日後に開催します。

昨年は、北海道・旭川から熊本、高知まで59点の銘酒が並びました。今年は???

日時: 平成9年5月18日(日)

場所: 鈴木家本店(我孫子)

平成8年度第3回かすが会例会報告

平成8年11月24日（日曜日）我孫子鈴木屋本店に於いて平成8年度第3回かすが会例会を開催しました。今回は『蔵元を囲んで』と題し、東西二つのメーカーをお招きしてお話を頂きました。蔵元からは次のお二人にご参加頂きました。

宮城県仙台市泉 『雪の松島』宮城酒類株式会社 小田嶋強一常務
和歌山県海南市 『菊御代』株式会社名手酒造店 名手 孝和専務

当日は春田育男かすが会幹事の司会でスタート、初めに森口嘉雄かすが会々長、続いて中村国夫春日や社長から挨拶があり、中村社長のお話の中で本日ご参加の『雪の松島』小田嶋杜氏が『現代の名工』として10月に表彰を受けたことをお祝いの言葉と共に紹介、参加者全員大きな拍手で祝福しました。

続いて司会の内山幸二かすが会顧問から蔵元お二人の簡単な紹介があり、今回のメインテーマである『蔵元を囲んで』の座談会に入りました。

杜氏として入社された後、酒造りは勿論のこと営業まで含めて、酒蔵経営全般のコントロールをしておられる『雪の松島』小田嶋常務と、社長の子息としていずれは後を継ぐべく、酒とは無縁の他業界から蔵元の専務となり、経営全般に携わっておられる『菊御代』名手専務の話は幅広く、また非常に突っ込んだ専門的な話となり、参加者全員にとって大変興味深く、また感銘深い座談会となりました。

座談会の終わった午後3時頃から、牧田茂かすが会顧問の音頭で乾杯を行い、両社のお酒を中心として恒例の懇親会に入りました。

途中、司会の春田幹事の発案で、参加中の会員やビジターの方々へのインタビューが行われ、和やかな雰囲気の中大いに盛り上がりました。

最後に吉倉孝也かすが会副会長の締めのご挨拶と三本締めで会を終了し、午後6時過ぎに解散となり全員帰途に着きました。

写真の説明 (上から順に)

- 1、挨拶する森口会長（左）、中村社長（右）
- 2、乾杯の挨拶牧田顧問（左）、司会の春田幹事（右）
- 3、座談会司会の内山顧問（左）、座談会風景（右）
- 4、『雪の松島』小田嶋常務（左）、『菊御代』名手専務（右）
- 5、出品酒いろいろ（左）、懇親会風景（右）



